

京都大学文学研究科修士課程修了生アンケート集計結果

令和5年3月実施

京都大学文学部・文学研究科では、卒業時・修了時にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。修士課程修了生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

【結果の概評】

以下、結果の概評に移る。なお、一部項目の結果については2020年度から今年度にかけての推移を示している。その際、括弧内に「〈2020年度の数字〉→〈2021年度の数字〉→〈今年度の数字〉」という形式で記載した。また、選択肢「A」を最高評価として満足度や達成度を問う項目について講評する場合、「A」「B」という上位2つの回答を合わせて〈肯定的な回答〉とみなしている。

今年度は修了者96名に対し、50名から回答を得た。回答率は昨年(88%)から急降下し、52.1%となった。

Q.2は大学院への進学を決めた時期を問うものである。1回生時点が約2割を占める一方で(19.7%→23.3%→18%)、最も多かったのは4回生時点である(39.4%→26.2%→38.0%)。

本学の基本理念である「自学自習」の実現度合いを問うQ.4、本研究科への満足度の度合いを問うQ.5では、いずれも肯定的な回答が殆どを占め、比率はそれぞれ88%、90%と例年並みの高水準を維持している。また、本研究科で身につけたことのうち、今後役立つと考えられるものを問うQ.7では、これも例年の傾向であるが、専門的知識(68%)、研究能力(72%)、問題発見、解決能力(76%)が特に高い割合を示している。いずれも、本研究科の教育プログラム、研究環境が学生から高く評価されている証左であろう。

研究科のディプロマポリシーの達成度合いを問うQ.9~12では、原典、一次資料の分析力に関連するQ.10(81%)、専門家としての責任感と倫理性に関連するQ.11(88%)において肯定的な回答が8割を超えた。特に、Q.11では一昨年、昨年と一貫して高い数値を維持しており(85.9%→85.4%→88%)、研究公正教育の成果が見て取れる。一方、海外に研究成果を発信するための語学力に関連するQ.12では、肯定的な回答が56%にとどまっており、一昨年、昨年と比較して改善されてはいるものの(53.5%→45.7%→56%)、さらなる改善が望まれる。

【自由記述欄】

自由記述欄では、コロナ禍に関連する不満を訴える声、論文指導体制について改善を求める意見が見られた。

以下、自由記述欄の内容をそのまま共有する。

- ・このアンケートの画面が紺色の背景に白の文字で非常に見づらかったです。
- ・在学中大変お世話になり、感謝申し上げます。
- ・原則対面授業とされているのにも関わらず、入学以降、3年間一度も第二演習を含め、対面授業を受ける機会に恵まれなかった。教授とのコミュニケーションも難しく、他の研究室の人とも会う機会もなく、心理相談室に定期的に行く必要かがあるほど大変だった。自学自習というが、他大学から入学したため、勝手が分からず、修士論文などについての最低限の情報を得ることも難しかった。せめて、必要な情報については大学の HP、KULASIS、学生便覧、その他の方法という仕方で情報が分裂していることは望ましくないので改善したほうがいい。特に修士論文ではどこにも書いてない内容を要求されていたことが口頭諮問において判明したのでこれは大問題だと考えるし、評価基準も不明瞭。また休学の際の単位などの説明もコロナの最中であつたにも関わらずオンライン上で完結せず、直接教務掛窓口に尋ねる必要があり、さらにそこでも解決しなかった。事務に関する問題が致命的であるので、改善した方がいい。他大学出身者から見るとあまりにも酷い。

アンケート名 令和4（2022）年度修士課程修了者アンケート

部局 文学研究科

対象者数 96

回答者数 50

回答率 52.1

結果 (Q.01) あなたの出身大学・学部等についてお聞きます。

A: 京都大学以外の日本国内の大学 (16票/32%)

B: 京都大学の他学部、研究科等 (0票/0%)

C: 京都大学文学部 (23票/46%)

D: 日本以外の大学 (11票/22%)

E: その他 (0票/0%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたが大学院へ進むことを決めたのはいつ頃でしたか？

A: 学部入学後 (9票/18%)

B: 系分属後 (2回生のとき) (5票/10%)

C: 専修分属後 (3回生のとき) (13票/26%)

D: 4回生になってから (19票/38%)

E: 大学卒業後、社会に出てから (2票/4%)

F: その他 (1票/2%)

G: 無回答 (1票/2%)



(Q.03) 進学動機の中で重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）

A: あなたが選んだ研究分野についてより深く学びたいと思った。(43票/86%)

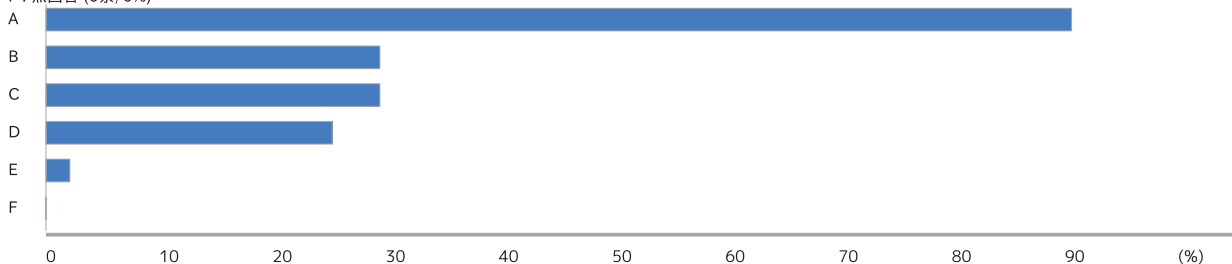
B: 大学院での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。(14票/28%)

C: 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。(14票/28%)

D: 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。(12票/24%)

E: その他 (1票/2%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念としています。これに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、どのように考えますか？

A: 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。(21票/42%)

B: 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている。(23票/46%)

C: どちらとも言えない。(5票/10%)

D: 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。(1票/2%)

E: その他 (0票/0%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.05) あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？

A: 十分に満足している。(25票/50%)

B: それなりに満足している。(20票/40%)

C: どちらとも言えない。(4票/8%)

D: 後悔している。(1票/2%)

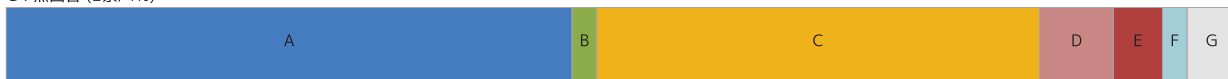
E: その他 (0票/0%)

F: 無回答 (0票/0%)



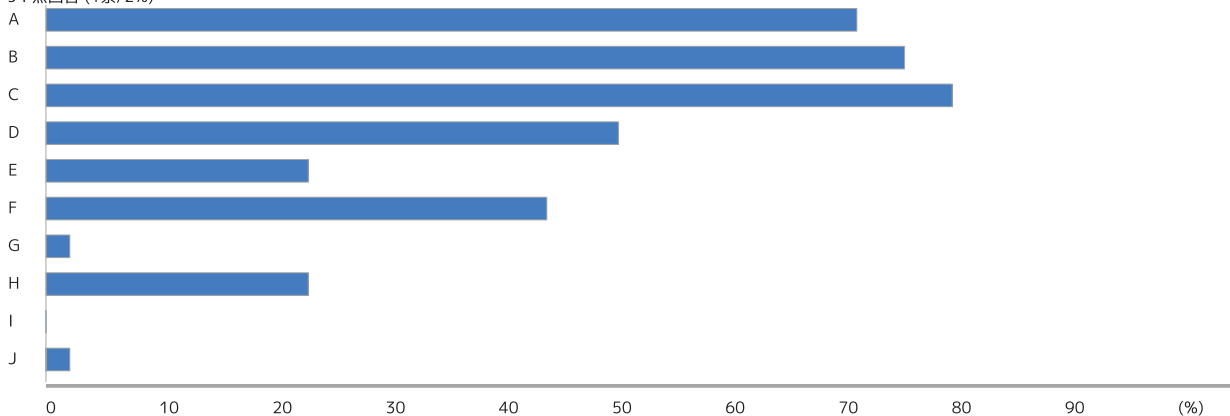
(Q.06) 4月以降の進路についてお聞きします。

- A: 博士課程進学 (他大学も含む) (23票/46%)
- B: 博士課程進学の準備 (1票/2%)
- C: 一般企業に就職 (18票/36%)
- D: 官庁、地方自治体等に就職 (3票/6%)
- E: 教員、司書等の専門職に就職 (2票/4%)
- F: その他 (1票/2%)
- G: 無回答 (2票/4%)



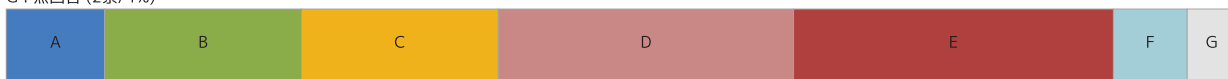
(Q.07) 文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。(複数回答可)

- A: 専門的知識 (34票/68%)
- B: 専門分野の研究能力 (36票/72%)
- C: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (38票/76%)
- D: 一般的な教養 (24票/48%)
- E: 国際感覚 (11票/22%)
- F: 外国語の能力 (21票/42%)
- G: リーダーシップ (1票/2%)
- H: 社会的常識 (11票/22%)
- I: その他 (0票/0%)
- J: 無回答 (1票/2%)



(Q.08) 差し支えなければ、あなたが属していた専攻を教えてください。(国際連携文化越境専攻の方は回答していただく必要はありません。)

- A: 東洋文献文化学 (4票/8%)
- B: 西洋文献文化学 (8票/16%)
- C: 思想文化学 (8票/16%)
- D: 歴史文化学 (12票/24%)
- E: 行動文化学 (13票/26%)
- F: 現代文化学 (3票/6%)
- G: 無回答 (2票/4%)



(Q.09) 以下、Q.09からQ.12で、文学研究科のディプロマポリシーに関してお伺いします。以下の項目についてどの程度達成できたか教えて下さい。

哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事するための能力を身につけている。

- A: 達成できた (8票/16%)
- B: ある程度達成できた (27票/54%)
- C: どちらとも言えない (8票/16%)
- D: あまり達成できなかった (7票/14%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.10) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている。

- A: 達成できた (17票/34%)
- B: ある程度達成できた (24票/48%)
- C: どちらとも言えない (4票/8%)
- D: あまり達成できなかった (5票/10%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.11) 専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。

- A: 達成できた (13票/26%)
- B: ある程度達成できた (31票/62%)
- C: どちらとも言えない (6票/12%)
- D: あまり達成できなかった (0票/0%)
- E: 達成できなかった (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.12) 研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけている。

- A: 達成できた (6票/12%)
- B: ある程度達成できた (22票/44%)
- C: どちらとも言えない (8票/16%)
- D: あまり達成できなかった (10票/20%)
- E: 達成できなかった (4票/8%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.13) その他意見・要望がありましたら、ご自由にお書きください。